



特集 第7回通常総代会



魅力たっぷり！
島根の農産物



2021

JAしまね第7回通常総代会を6月27日(日)、大田市の大田市民会館で開催しました。



今年で第7回を数える通常総代会を6月27日(日)、大田市の大田市民会館で開催しました。

昨年に続き、新型コロナウイルス感染症対策として書面での決議を推奨し、当日は総代定数1,000人(欠員4人)に対し、973人(本人出席43人、書面議決930人)の出席。議長団に原田稔総代(やすぎ地区本部)、北村一夫総代(斐川地区本部)の両氏を選出し、各地区本部総代から意見、要望が出される中、前年度事業報告や新年度事業計画など全議案が可決承認されました。

石川寿樹組合長は「今年度も厳しい状況ではあるが、なんとしても盤石な経営基盤を確立しなければならない。営農経済事業改革、信用共済事業改革にしっかり取り組み、実績を残していく。また、コンプライアンス体制の強化と不祥事再発防止策を最重要課題として、役職員一人一人が意識と自覚を持ち、組織をあげて改善に取り組んでいく」とあいさつしました。



石川寿樹 代表理事組合長



議長団 原田稔総代(左) 北村一夫総代(右)

JAしまねの「不断の自己改革」の実践に関する特別決議

JAしまねは、平成28年度より、組合員との対話に基づいて「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」という基本目標の実現に向けて、創造的自己改革の実践に全力で取り組んできました。

これまでの自己改革の取り組みについては、平成31年に実施した「JAの自己改革に関する組合員調査」等において、県内の多くの組合員から、総合事業を通じた自己改革への評価と期待の声をいただきました。

こうしたなか、政府による改正農協法5年後検討の節目を迎え、コロナ禍や人口減少等による農業・地域・JA経営の厳しい状況を踏まえ、これまで以上に組合員の声を真摯に聴き、丁寧な対話を積み重ねるとともに、営農経済や信用共済等の事業改革の実践を通じて、基本目標の実現に向けた取り組みを持続していかなければならない。

今後ともJAしまねが、「不断の自己改革」を通じて、農業・地域の展望を力強く切り拓き、組合員と地域にとってなくてはならない組織であり続けるために、下記の事項に取り組む。

記

1. 今後とも組合員との徹底した対話に基づき、総合事業と協同活動を通じて、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つの基本目標の実現に向けた「不断の自己改革」に全力で取り組む。
2. 正組合員と准組合員が一体となったJA運営を実現するため、准組合員を「正組合員とともに農業や地域経済の発展を共に支える組合員」と位置付け、その声を経営に反映するとともに、一層の事業利用と組合員組織や協同活動への参加を進めていく。
3. 地域になくしてはならないJAであり続けるため、自己改革の実践を支える持続可能なJA経営基盤の確立・強化に取り組む。

以上、決議する。

令和3年6月27日

第7回 島根県農業協同組合 通常総代会

また今回、JAしまねの「不断の自己改革」の実践に関する特別決議が、満場一致で採択されました。

今後、この決議に基づき、引き続き「不断の自己改革」に全力で取り組むとともに、正組合員・准組合員が一体となったJA運営の実現と持続可能な経営基盤の確立・強化に一層取り組んでいきます。

第7回

通常総代会特集

令和2年度 事業報告

令和2年度は、当初よりコロナ禍の影響により時短営業や外食の自粛・インバウンド需要の激減に伴う業務用農畜産物の需要減少、式典やイベントの自粛に伴う花きの需要減少、移動制限に伴う地方の観光関連収入の減少など農業・農村地域においても多大な影響が出ました。また、都市圏を中心とした度重なる緊急事態宣言の発令、変異株ウィルスの発生等により依然として厳しい状況となっています。

海外の経済についても、新型コロナウイルスに対するワクチンの開発、接種により緩やかな回復が期待されていますが、今後の感染再拡大への効果はまだ未知であり、先行きは不透明なものとなっています。

島根県内の経済を振り返ると、春先の全国一斉緊急事態宣言解除後、雇用情勢は一定の改善の動きが見られ、個人消費も緩やかに持ち直しの動きが見られましたが、今後、変異株の発生による感染再拡大、都市圏を中心とした緊急事態宣言等の動向等を注視していく必要があります。

農業情勢においては、令和2年7月の豪雨災害、令和3年1月の大雪などの自然災害が発生し、全国各地で農産物・農業施設等に甚大な被害をもたらしました。また、令和2年11月に発生した鳥インフルエンザにより、農業における飼養衛生管理基準の遵守状況の自主点検や全国一斉緊急消毒が行われました。引き続き、災害復興・防疫の取り組みを進めていく必要があります。

JAGグループにおいては、最大の懸念事項であった准組合員の事



山根盛治 代表理事副組合長

業利用規制については、令和3年3月の規制改革推進会議農林水産ワーキンググループにおいて、農水省が「組合員の判断」とする方針を提示したことをふまえ、引き続き「不断の自己改革」を着実に実践していく必要があります。

こうした状況の中、令和2年度は「第2次中期経営計画」並びに「第2次農業戦略実践3カ年営農計画」の2年目として、営農指導と経営指導を通じた農業所得の増大、地域の活性化、農業生産の拡大に向けた取り組みを実施しました。

取り組みの結果、販売品販売・取扱高が379億96百万円、購買品供給高が313億20百万円、貯金残高が9.964億4,400万円、貸出金残高が2.836億8,900万円、長期共済保有高が3兆1,837億8,400万円、貸出金残高が2,836億8,900万円、貸出89百万円、長期共済保有高が3兆1,837億84百万円となりました。また、財務状況の安全性を示す指標である自己資本比率は14.33%となりました。

収支面については、事業利益が9億6,200万円、経常利益は23億700万円、当期剰余金は17億1,600万円となりました。

貯金残高	9,964億4,400万円
貸出金残高	2,836億8,900万円
長期共済保有高	3兆1,837億8,400万円
自己資本比率	14.33%
事業利益	9億6,200万円
経常利益	23億700万円
当期剰余金	17億1,600万円



高木賢一 代表理事専務

本総代会にて付議した議案は次のとおりです。

- 第1号議案 令和2年度事業報告及び剰余金処分案について
- 第2号議案 令和3年度事業計画の設定について
- 第3号議案 定款の一部変更について（特別決議案）
- 第4号議案 共済規程の一部変更について
- 第5号議案 「海士町複業協同組合」への加入について
- 第6号議案 令和3年度指導事業に要する経費の賦課及び徴収の方法の決定について
- 第7号議案 令和3年度における理事の報酬額の決定について
- 第8号議案 令和3年度における監事の報酬額の決定について



組合員の状況

① 組合員数

(単位：組合員数)

資格区分		前期末	当期増加	当期減少	当期末	
正組合員	個人	62,951	761	2,345	61,367	
	法人	農事組合法人	237	6	1	242
		その他の法人	231	14	4	241
	計	63,419	781	2,350	61,850	
准組合員	個人	162,951	2,582	3,841	161,692	
	農業協同組合	—	—	—	—	
	農事組合法人	22	—	2	20	
	その他の団体	1,813	23	23	1,813	
	計	164,786	2,605	3,866	163,525	
合計		228,205	3,386	6,216	225,375	

② 出資口数

(単位：口)

資格区分		前期末	当期増加	当期減少	当期末	
正組合員	個人	16,209,400	301,621	638,238	15,872,783	
	法人	農事組合法人	26,608	221	53	26,776
		その他の法人	30,345	232	47	30,530
	計	16,266,353	302,074	638,338	15,930,089	
准組合員	個人	5,831,310	312,312	242,299	5,901,323	
	農業協同組合	—	—	—	—	
	農事組合法人	2,106	13	189	1,930	
	その他の団体	92,449	408	1,090	91,767	
	計	5,925,865	312,733	243,578	5,995,020	
処分未済持分		136,195	122,693	136,195	122,693	
合計		22,328,413	737,500	1,018,111	22,047,802	

摘要：(1) 出資一口金額 1,000円
 (2) 当期末払込済出資総額 22,047,802,000円

財務・事業成績の推移

(単位：百万円)

区分	項目	第6事業年度 (令和元年度)	第7事業年度 (令和2年度)	
財務	事業利益	474	962	
	経常利益	1,987	2,307	
	当期剰余金	992	1,716	
	総資産	1,114,801	1,109,021	
	純資産	77,103	79,681	
信用事業	貯金	976,761	996,444	
	預金	539,985	550,897	
	貸出金	286,465	283,689	
	有価証券	国債	70,673	63,069
		その他	79,365	74,119
共済事業	長期共済保有高	3,313,661	3,183,784	
	短期共済新契約掛金	9,615	9,311	
購買事業	購買品供給高	32,091	31,320	
販売事業	販売品販売・取扱高	38,694	37,996	

(注1) 貯金は譲渡性貯金を含む。

(注2) 販売品販売・取扱高は受託販売品と買取販売品の合計。

令和2年度(第7事業年度)剰余金処分案

(単位：円)

1. 当期末処分剰余金	2,586,574,472
2. 剰余金処分額	1,962,467,534
(1)利益準備金	344,000,000
(2)任意積立金	1,400,000,000
農業振興積立金	250,000,000
農業災害積立金	250,000,000
教育研修充実積立金	200,000,000
信用事業システム開発積立金	250,000,000
BIS規制強化対応積立金	250,000,000
施設等更新積立金	200,000,000
(3)出資配当金	218,467,534
3. 次期繰越剰余金	624,106,938

(注1) 出資配当金は年1.0%の割合である。

(注2) 次期繰越剰余金には、営農指導、生活・文化改善事業の費用に充てるための繰越額85,810千円と、地区本部業績還元のために繰越額100,000千円が含まれている。

令和2年度 主な事業活動と成果

令和2年度は、「第2次中期経営計画」並びに「第2次農業戦略実践3カ年営農計画」の2年目として、営農指導と経営指導を通じた農業所得の増大、地域の活性化、農業生産の拡大に向けた取り組みを実施しました。

販売事業

米穀は水稻の作況指数が99（前年99）となり、主食用米の収穫量は85,800トンで、前年産比300トンの増となりました。また、集荷数量は令和3年3月末現在で34,043トンとなり、出荷契約に対する集荷進度は88.3%、前年対比では96.4%となりました。

園芸

島根ぶどうが、販売面でSNSによる宣伝やフォトコンテストを取り入れたことやコロナ禍による巣ごもり需要による量販店需要が活発であったこともあり、kg単価において過去最高の1,359円（税別）となりました。西条柿は、総じて品質は良好であり、kg単価は前年を上回りました。



畜産

乳価において、生乳流通体制の合理化（共販体制）の推進と、乳質改善の取り組みにより、昨年対比で2円のkg単価の向上が図られ販売額拡大につながりました。



資材

肥料・農薬については、昨年に引き続き肥料統一銘柄7品目、農薬統一銘柄10品目を継続して選定し、品目集約による価格低減を図りました。また、価格低減となる担い手直送超大型規格農薬の普及に取り組みました。

信用事業

総合事業体であるJAの特性を生かし、「しまね和牛」をプレゼントするキャンペーンを実施し、農畜産物消費拡大、農家所得の向上に取り組みました。貸出金については、農業資金において、担い手農業者の皆様の借入負担軽減に向けた取り組みとして、各農業資金の保証料（島根県農業信用基金協会）を全額助成しました。



共済事業

担い手経営体や個人農業者に対し、農業経営に関わる様々なリスクへの診断を行う「農業リスク診断活動」に取り組みるとともに、「JALまね子ども倶楽部」を通じた子育て支援や次世代との繋がりづくりに努めました。

くらしの活動

豊かでくらしやすい地域づくりのため、「食と農に関する活動」「地域貢献活動」「支店ふれあい活動」を三本柱に、コロナ禍による活動制限があるなかで、ふれあい活動に取り組み、食と農、地域とJAを結び取り組みとして、組合員や地域住民とJA役職員が一体となった取り組みを展開し、農協運動の活性化に努めました。



令和3年度 事業方針

農業振興

方針

「第2次農業戦略実践3カ年営農計画」の最終年度として、進捗状況を踏まえ施策に微修正を加えながら、「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に繋がる目標の達成に、全力で取り組みます。

また一方で、大規模自然災害・地球温暖化、生産者減少等の生産基盤の脆弱化・地域コミュニティの衰退、新型コロナウイルスを契機とした生産・消費の変化等課題に直面し、国では新たな技術体系の確立と更なるイノベーション（新たな技術・価値）で実現する「みどりの食料システム戦略」が策定される見通しです。

この生産力向上と持続性の両立を実現する、世界的な脱炭素社会の実現に向け、いかに対応していくか、協議検討していくことが強く求められます。

重点事項

- ① 新規就農者を含む地域の担い手育成
- ② 担い手経営体の経営課題に対応した農業経営管理支援

- ③ J Aの総合力を発揮した事業承継支援の実施
- ④ 農作業等の安全安心対策
- ⑤ 営農指導での生産者貢献
- ⑥ 農業振興支援事業の実施
- ⑦ 「重点推進5品目」の拡大を核とした水田での園芸振興の推進
- ⑧ 主食用米の「きぬむすめ」「つや姫」への品種誘導
- ⑨ 島根県産農畜産物の安全安心の取り組み
- ⑩ 担い手の労力軽減の取り組み
- ⑪ 農業者のセーフティネットへの加入促進

全 般

くらしの活動

豊かなくらし・地域づくりを目的とし、「食と農に関する活動」「地域貢献活動」「支店ふれあい活動」を三本柱に地域活性化の核となる取り組みとしてすすめます。

販売事業

「第2次農業戦略実践3カ年営農計画」に掲げた「販売を起点としたものづくり」の実現に向け、行動計

画を策定し進捗管理を行うことにより、生産現場での営農指導と販売を連携させた実践策を講じます。

購買事業

農家組合員の営農を支え地域農業の振興に資するため、営農指導部門・販売部門・T A Cと一体となって効率的な購買事業を進め、農家組合員の生産コスト低減と組合員サービスの充実・強化に努めます。

また、組合員・地域住民の暮らしを支援し、地域の活性化に貢献するとともに、時代の変化・多様なニーズに対応した商品の提供が行えるよう、生活購買事業・店舗購買事業・自動車燃料事業を積極的に取り組み、より一層のサービスの充実に努めます。

信用事業

総合事業の強みを活かして他業態と差別化した価値を提供しつつ、コスト削減につながる事業見直しにより持続可能な収益構造を構築し、農業・地域から一層必要とされる存在を目指します。

また、コロナ禍での「新しい生活様式」に見合った金融サービスの提供をすすめます。

共済事業

組合員・利用者のくらしを守り、農業経営と地域社会に貢献する活動を展開するため、3 Q 訪問活動を通じて「ひと・いえ・くるま」の総合保障の提供及び「農業リスク診断活動」を実践するとともに、次世代・次々世代など新たなJ Aファン（理解者づくり）により事業基盤の維持・拡大を図ります。

また、高位均質で満足度の高いサービスの提供、適正・迅速かつ効率的な事務処理の実施を図るとともに、コンプライアンス態勢を強化・徹底します。



功労者表彰名簿

第7回通常総代会開催にあたり、昨年9月の総代任期満了により総代を退任された皆様のなかから、統合前を含めて長年に渡りご尽力をいただいた皆様方を讃え表彰いたします。

くにびき地区本部

松本 英雄 諏訪 智子 寺本 圭介 山根 輝子
村上 幸可 渡部 文明 中村 礼三 立石 琢雅
石川 廣 長野 三紀男 山本 慶一 広江 朝夫
平田 敬市

(13名)

出雲地区本部

神谷 湧三 渡部 忠雄 坂根 光紀 飯國 重良
日野 誠一 石橋 貞則 増原 福次 佐貫 英明
塩野 一男 三成 重徳 田口 文雄 大谷 健二
福代 明正 大野 正雄 大園 山 重子 大原 俊正
大野 正雄 高橋 早苗 立石 進美 山根 功
高橋 早苗 永瀬 かい子 本行 雄巴 野中 敏雄

(26名)

やすぎ地区本部

池田 重吉 奈良井 祐隆 塩見 秀雄 近藤 誠
原 邦夫 石原 憲次 二岡 嘉昭 近藤 誠
岩田 博実 三輪 正美 原田 貴子 安達 隆夫
古志野 四郎 山岡 政信

(14名)

斐川地区本部

高木 紀明 陰山 順造 福田 弘道 星野 勉
北村 守 多々納 正夫 山根 英樹

(7名)

雲南地区本部

内田 富正 熱田 孝義 星野 美智子 陶山 治喜
中西 勝子 川上 清照 藤原 西川 延子 山江 耕一
坂本 美和子 吉田 勉 藤原 西川 勝己 須山 耕二
安部 備造 榎 正美 田部 淳 青木 好満
鳥谷 紀幸 小畑 昇 板持 美明 青木 好安
落合 慧 佐藤 田一男 廣澤 幸博 目黒 幸正
安立 彰 佐藤 茂夫

(26名)

石見銀山地区本部

中村 洋子 杉本 修司 奥 治美 佐藤 重利
中村 洋子 杉本 修司 奥 治美 佐藤 重利
奥 治美 佐藤 重利 吾郷 登久枝

(7名)

鳥根おおち地区本部

荒田 和明 井上 直樹 市原 弘明 三上 好弘
鹿野 好明 品川 喜代市 岸 忠良 小畑 寅男
山田 昇 日高 浩二 下垣 潔 井上 清實

(12名)

隠岐地区本部

上川 正治

(1名)

いわみ中央地区本部

奥迫 勝実 奥 静雄 山内 満晴 上野 久善
河部 保子 岡田 利広 西谷 コトミ 天野 明
青木 耕二 吉田 虎雄 大島 秀孝 新森 増美

(12名)

隠岐どうぜん地区本部

上田 正子 杵築 憲治

(2名)

西いわみ地区本部

三浦 孝雄 石橋 斎 青木 登志男 波田 地宝
山本 定男 河田 寿樹 長谷川 昇 浦口 傳
平川 巖

(9名)

令和2年9月退任の皆様。順不同。129名

第7回総代会



Q コンプライアンスについて、色々体制を整えているようだが、不祥事が起きないように組織を作っていた
きたい。

A 不祥事を発生させない体制を作っていくため、現在、新たなルールを定め、組織を挙げて徹底を図っている
ところ。職員が二度と同じ過ちを犯さないよう、引き続きリスク管理部を中心に体制を組み立て、再発
防止に取り組んでまいります。

Q 組合員に喜んでもらえる業績還元のある方を一考していただきたい。

A 業績還元はJA全体で1億円を上限に、各地区本部の収支実績に基づき配分し、地区本部で還元を実施して
います。信用共済事業の収益が低下等により収支状況が厳しく、十分に還元できていない地区本部もあり
ますが、営農経済事業改革・信用共済事業改革の取り組み等により収支改善を図るなかで、十分な還元となる
よう取り組みます。

Q 組織運営体制について、理事会制・経営管理委員会制については今後も研究、検討を継続するのか。

A 検討委員会では、経営管理委員会制運営について、コロナ禍の中、視察もできず、制度や実態を正確に確認
することが不十分であり、今後も検討・研究は継続しようということになりました。体制は理事会制により、
当面の事業改革を断行し、持続可能なJAを作り上げるということで意見は一致いたしました。

Q 多収穫米をJAしまねの主力米レベルに持っていくために県市町村と連携して推進していくのか伺いたい。

A 多収穫米の誘導については、今のコメ余りの時に疑問を呈する声も多いものの、外食産業等で安価な米の需
要が一定数あるのも事実なので、良食味米の販路に影響を与えない範囲の、限定的な生産販売は必要と考え
ます。ただ、未だ島根県内では多収実績が乏しく、皆さんへ勧められる品種にないため、まずは安定多収が
得られるよう県と連携しながら試験栽培を積み重ね、県内での生産技術の確立を目指します。

Q 島根県下の地区本部の統廃合・非常勤理事制度について考えを伺いたい。

A 統合当初より、組合員の意思に従って、11の地区本部による「地区本部制」を大
事にしながら運営しています。統合から7年が経過するなか、いろいろな問題や
課題があります。どこに問題があり、どういう運営体制が一番良いのか、組合員
の意見を聞き、整理をしながら次の時代に向かっていきたいと思っております。



輝く50万パワー☆ しまねの女性部！

雲南女性部

地域のみなさんや、
女性部員が元気になる
楽しい活動を行っています

雲南女性部は「JA女性 地域で輝け 50万パワー☆」を活動方針とし、様々な活動に取り組んでいます。

令和2年度はコロナ禍において思うような活動が出来ませんでした。高橋美佐子部長の「できることから始めよう！」を合言葉に「島根タオル帽子の会」の活動に賛同し、雲南女性部全支部でタオル帽子作りに取り組みました。

また、令和元年度からJAグループの家庭雑誌「家の光」を積極的に活用した活動を展開し、雲南地区本部ふれあい課職員が講師を務める講座も行っています。

さらに、健康管理活動として「農業者・女性部健診」乳がん検診、胸部CT検診の受診をすすめ、多くの部員が受診しました。

今年度はどじょうすくい体操やどじょうすくいパラパラで楽しく体を動かし、心身ともにリフレッシュできるような活動も取り入れていきたいと考えています。また、「SDGs」の理解を深め、地域で輝ける女性を目指します。



一所懸命青年連盟

JAしまね隠岐青年連盟

地産地消に取り組み、
農業を通じて、
地域に貢献していきたい

JA YOUTH

かつべ さとし
勝部 聡史さん



JAしまね隠岐青年連盟（以下「農青連」）の勝部聡史さん（27）は、地元隠岐の島町で就農して4年目になります。

県外の大学の農学部を卒業後、地元の建設業者で農業にも取り組む会社に就職し農業を始めました。その会社では、水稻を中心に主にコシヒカリ、きぬむすめ、山田錦を栽培しています。また、隠岐の島ならではの「藻塩米」の生産にも取り組んでいます。

農青連には関係者からの勧めで加入し、盟友と一緒に様々な活動に参加しています。今後について「ハウスを新設し園芸分野にも手を広げていく中で、まずは従業員として会社を支えていきたい」と話す勝部さん。「隠岐の農業を発展させることを考えたとき、一人よりも二人、二人よりも三人と、仲間が多いほどスピード感ができるので、会社で雇用を増やせるような体制をつくり、農青連を通して人とのかかわりを広げていきたい」と今後の意気込みを語りました。



あなたもチャレンジ!
家庭菜園

ニンニク

適期に植え付け、追肥と灌水を行う

中央アジア原産と推定されるヒガンバナ科の多年生草本で、生育適温は15～20度、暑さに弱く、寒さには比較的強い野菜です。栽培は秋に種球を植え付け、初夏に収穫します。

強い香りの成分は硫化アリルで、体内で豊富に含むビタミンB1と結合すると疲労回復効果があります。

品種

温暖地向きでは「平戸」「嘉定」「上海」など、「ニューホワイト六片」は寒冷地から弱暖地にも向く品種です。

畑の準備

植え付け2週間前までに、1平方m当たり苦土石灰200gを施して土に混ぜておき、1週間前に化成肥料(NPK各成分10%) 100gと完熟堆肥を2kg施します。その後、幅70～100cmの畝(ベッド)を作り、穴の間隔が15cm程度の黒マルチフィルムを張ります(図1)。

植え付け

9月上旬ごろに休眠が明けてくるので、種球を小片(鱗片:りんぺん)にばらし(図2)、寒冷地では9月中旬～10月上旬、温暖地では9月下旬～10月中旬に植え付けます。小片頂部を上にマルチ穴(15cm間隔)に深さ5cm程度に浅く植えます(図3)。

わき芽かき

芽出し後に1株から2芽以上出たときは、生育の良い1芽を残して、手で早めにかき取ります(図4)。

追肥・花蕾(からい)摘み

成長が再開する翌春2月と3月に1平方m当たり化成肥料50g程度を追肥しますが、マルチ栽培では所々穴を開けておきます。とう立ちしてつぼみが付いたら、球の肥大に影響があるため花蕾を早めに摘み取ります。畑の乾燥に弱いため、特に春先からの灌水(かんすい)が必要です。

収穫

初夏になり、葉が半分くらい枯れたら、晴天日に抜き取って根を切り落とし、畑で2～3日乾かします(図5)。その後、茎を30cmほど残して切り取り、10球程度を束ねて風通しの良い軒先などにつるします(図6)。

図1 畑の準備

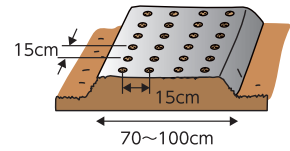


図2 種球の準備

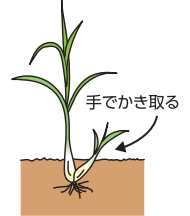


図3 植え付け



小片の上に5cmの土がかぶさる深さまで押し込む

図4 わき芽かき



手でかき取る

図5 収穫

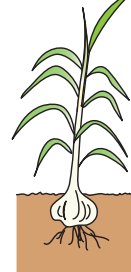
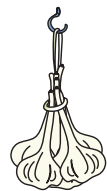


図6 貯蔵



園芸研究家 成松 次郎

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

理事会情報 (6月30日開催)

【協議事項】

- ①葬祭事業に係る利用料の変更・新設および関連規程の一部改正について
- ②第7事業年度業務報告書について
- ③ディスクロージャー誌2021について
- ④組合と理事との取引(契約)の承認について

⑤役員賠償責任保険への加入について

- ⑥育児・介護休業法施行規則等の改正に伴う正職員以外の就業規則等の一部改正について
- ⑦理事の個別役員報酬額の決定について
- ⑧執行役員(執行役員)の個別報酬額の決定について
(紙幅の関係上、報告事項は省略いたします)

組合員からの情報提供窓口の設置について

当組合の監事は、経営の健全な発展に資するため、農協法(法第35条の5)および農協法施行規則(第81条)に基づき、理事の職務の適正な遂行を阻害する行為に関する情報(組合経営に関する事象に限る)の提供を受付けています。

当組合理事の組合経営に関する気になる行為について、封書またはEメールにて下記宛に連絡くださいますようお願いいたします。

島根県農業協同組合 監事会

連絡先: 住

所 〒690-0887 松江市殿町19番地 1

Eメールアドレス kanji.hon@ja-shimane.gr.jp

部署名 監査部

受付 監事 常勤監事

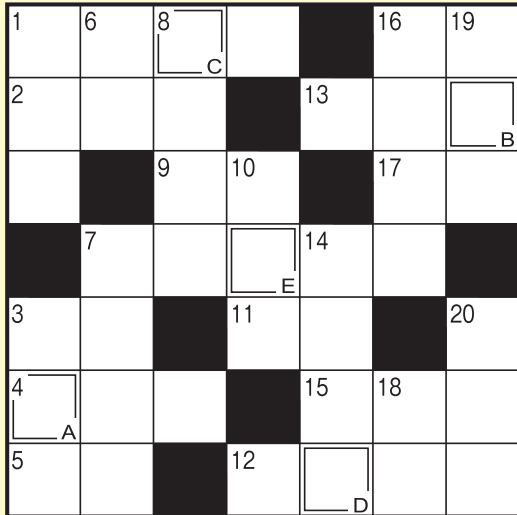
※当組合の業務に関する一般的な苦情については、担当部署または支店で受付けていますのでご利用ください。

※ご厚意による情報提供であっても、誹謗・中傷に類似する内容のものは受付けいたしかねますので、予めご了承ください。



二重マスの文字をA~Eの順に並べて
できる言葉は何でしょうか？

出題●ニコロ



答え
A B C D E

タテのカギ

- ①中東の国の一つ。首都はバグダッド
- ③台風に備えて閉めておこうかな
- ⑥すしのしゃりにのせませす
- ⑦9月の第3月曜日は——の日。国民の日です
- ⑧難しくありません
- ⑩町火消しが火事場で振った物
- ⑭草木も眠る——時
- ⑯夕方「カナカナカナ……」と鳴くセミ
- ⑰ハウスみかんの生産量が日本一の県
- ⑲鼻からあごまでを覆うように着けます
- ⑳十五夜に楽しむもの

ヨコのカギ

- ①米の収穫作業の一つ。手で行うときは鎌を使います
- ②家具などに使う籐(とう)のこと
- ③アルファベットの9番目
- ④フランス語で栗のこと
- ⑤1位が金、2位が銀なら3位は
- ⑦阿倍仲麻呂や吉備真備などがこの役を果たしました
- ⑨鉄砲に込める物
- ⑩チョコがはさみならグーは
- ⑫ボール紙のことをこう呼ぶことも
- ⑬釣りに使う透明な糸
- ⑮宗谷、室戸、足摺といえは
- ⑯何もすることがない状態です
- ⑰喜・怒・哀・——

応募要項

- 応募方法
ハガキに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌に関するご意見・感想を記入して、下記宛先にお送りください。
- 賞品
正解者の中から抽選で40名(JAしまね全体)の方に「農協全国商品券」をお贈りします。
- 当選者発表
賞品の発送をもってかえさせていただきます。
- 宛先・締切
〒685-0016 隠岐郡隠岐の島町城北町151
JAしまね 隠岐地区本部 「クイズ」係
2021年9月3日(金)(当日消印有効)

◆先月号の答え◆

「リツシュウ」



川柳の広場

最優秀賞

雑魚は雑魚なり知恵いっぱいに生きている

出雲市 大福 利彦様

選句者 島根県川柳連盟会長 竹治ちかし先生

(評)「一寸の虫にも…」の例えのように、雑魚にも雑魚の意地があります。力いっぱい生きてゐるものは、素晴らしい。

優秀賞

炊飯器ふっくら朝の音で焚く

出雲市 小白金房子様

晩婚で隠居お預け喜寿二人

松江市 後藤 竹子様

孫のため付けた手すりに助けられ

浜田市 沖田 邦子様

佳作

梅雨の空はやっぱ青がいい
山菜の季節に山が動き出す
忘れたきことの一つや二つなど
向日葵に背を抜かれたと嘆く孫
藤井二冠より孫がいい母が言ふ

出雲市 野中 花蓮様
出雲市 堀江 英子様
安来市 斎藤美重子様
兵庫県 小田 和子様
吉賀町 村田 綾美様

「家の光」でも俳句・川柳・詩・短歌を毎月募集しています。こちらへもぜひご応募ください！

「家の光」9月号 定価922円(税込)購読は、お近くのJAへお問合せください。



JAしまねびよりは、皆様からの俳句・川柳を募集しています。締切は毎月14日必着です。(最優秀賞1句、優秀賞3句、佳作5句)9月号は俳句を募集します。1回のご応募につきお一人様3句までご応募いただけます。

応募方法

俳句または川柳、住所、氏名、年齢、電話番号を記入のうえ、ハガキ、FAX、Eメールのいずれかでご応募ください。
※応募作品は自作で未発表のものに限ります。
※応募作品の一切の権利は、JAしまねに帰属するものとします。
※受賞作品は地域名、氏名(または雅号)を掲載します。

あて先

〒690-0887 松江市殿町19-1
JAしまね ふれあい福祉課
「俳句の広場係」または「川柳の広場係」
FAX: 0852-67-7708
Eメール: fureai.hon@ja-shimane.gr.jp



最優秀賞、優秀賞の4名様には「農協全国商品券1,000円分」をお贈りします。

・お預かりした個人情報、プレゼントの抽選・発送のみに使用し、その他の目的で利用することはありません。






若い
今こそ年金
アクション!



若い農業者の皆さん! 自分の老後自分で守れますか?

農業者年金なら・・・

-  国庫補助で手厚い支援
1万円の自己負担で**2万円の積立てが実現!**
-  早く加入すれば、**国庫補助が長く受けられます**
-  自ら支払った保険料は、**全額社会保険料控除**
の対象!さらに**保険料は自由に選べます!**

※農業者年金の加入には、
「国民年金第1号被保険者であること」
「年間60日以上農業に従事していること」
「60才未満であること」



の3つの要件を満たしている必要があります。
※国庫補助を受けるためには加えて、「認定農業者、認定新規
就農者であること」や「青色申告をしていること」等の要件
が必要です。

※詳しくは、お近くの農業委員会、又はJAへ!

詳しくは…

<https://www.nounen.go.jp>

ハチを見かけたら巣づくり警報!

無料調査
ハチ
駆除

近寄らず、触らず!!
ハチの駆除はプロにお任せください。

ハチの駆除をご希望の方は
最寄りのJAまでご連絡ください。
JAしまね取扱業者(株)コダマサイエンスの
地区担当者が訪問させていただきます。



お問い合わせ先

最寄りのJA各支店に
お問い合わせください

取扱業者

(公社)日本しるあり対策協会企業登録(島根県002・鳥取県002)

Kodama 株式会社 コダマサイエンス

■本社/島根県松江市西塚島2-8-23 ☎0852-43-0852

■松江営業所/☎0852-26-6757 ■江津出張所/☎0855-52-6852

■益田営業所/☎0856-22-5390 ■隠岐営業所/☎08512-2-2471

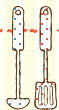
謹んで豪雨災害のお見舞いを申し上げます

この度の大雨により被害を受けられました皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

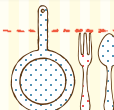
島根県農業協同組合 代表理事組合長 石川 寿樹



島根うまれの食材レシピ



しまねうれしび



島根県『家の光』講師
飯塚生美子 先生

ピリ辛肉みそ トマトのせ



コメント

- ・日持ちするので、常備すると重宝です。(密封容器に入れて冷蔵庫で4~5日間)
- ・辛さは豆板醤の量で加減してください。

アレンジ

- ・ご飯のお供やおにぎりの具に。葉野菜で巻いたり冷ややっこのトッピングにも使えます。
- ・そうめんのにせるとジャージャー麺風に変身します。

材料 (4人分)

- トマト……………2個
- 合挽肉……………200g
- 生姜……………ひとかけ
- A 酒……………小さじ1
- しょうゆ……………小さじ1
- 細ねぎ……………4~5本
- サラダ油……………大さじ1
- 味噌……………大さじ2
- 砂糖……………大さじ2
- B 酒……………大さじ1
- しょうゆ……………大さじ1
- 豆板醤……………小さじ1/2~1

作り方

- ①生姜はみじん切りにする。細ねぎは小口切りにする。
- ②トマトは7~8ミリ厚さの輪切りにして、皿に盛り付ける。
- ③合挽肉にAを振りかけ軽く混ぜ、下味をつける。(挽肉を50度のお湯につけて、ザルにあげ、水気をきると余分な脂やアクを取り除くことができ、軽い仕上がりになります)
- ④フライパンにサラダ油を熱し、③の肉を入れてほぐしながら炒める。色が変わったらねぎの半分を加熱してさらに炒める。
- ⑤ねぎに火が通ったら、混ぜ合わせたBを加え、混ぜながら汁けがなくなるまで炒め肉みそにする。
- ⑥②のトマトの上に⑤のをせ、細ネギをかけた後完成。

材料 (4人分)

- 海老……………200g
- 塩……………小さじ1/2
- 片栗粉……………小さじ2
- ピーマン……………3個
- オクラ……………1袋(8~10本)
- ホールコーン……………100g
- にんにく……………ひとかけ
- ごま油……………大さじ1
- 中華だし……………小さじ1
- A しょうゆ……………小さじ1
- 塩こしょう……………少々

作り方

- ①海老は殻と背ワタを取り除いて塩をもみ込み、片栗粉を振りかける。
- ②ピーマンは半分に切って種を取り除き、一口大の細長い斜め切りにする。
- ③オクラは額をぐるりと削り取り、半分に斜め切りにする。
- ④にんにくはみじん切りにする。
- ⑤フライパンにごま油とニンニクを入れ、火をつけ、香りが出てきたらピーマン、オクラを広げて入れ、2分間かき混ぜずにおき、裏返して2分間炒め、Aの調味料を入れて、炒めて取り出す。
- ⑥取り出したフライパンにごま油を入れ、①の海老を焼き、火が通ったら、⑤の野菜とホールコーンを加えて軽く炒め合わせたら完成。

海老と夏野菜の中華炒め



コメント

- ・野菜は余熱でも火が通ります。少し硬めくらいで火からあらずとシャキッと仕上がります。
- ・野菜を炒める時はフライパンに入れたらそのまま置いて、水分を適度に飛ばしてから炒めると水っぽくなりにくいです。

アレンジ

- ・野菜はなんでもOKです。
- ・ホールコーンを大きく炒めた卵に変えてボリュームアップ!

健康散歩

尿路結石に気を付けましょう

JA島根厚生連

暑い夏はたくさん汗をかいたため、体の水分量が減少しやすい時期です。この時期に発症しやすい病気の一つに「尿路結石」があり、気温の上昇とともに増える傾向があります。尿路結石とは尿の通り道(尿路)である、腎臓・尿管・膀胱・尿道に石ができる病気です。腎臓にあるうちはあまり痛みを感じませんが、結石が尿管に出て途中で詰まると痛みが出ます。自覚症状としては背中・脇腹・下腹部の激しい突然の痛みや、見た目で見える肉眼的血尿などがあります。結石は主にカルシウムやシュウ酸できています。結石を予防するためには、シュウ酸などを増やす動物性たんぱく質を摂取する量を少し控えるとよいでしょう。ほうれん草などシュウ酸を多く含む食品を食べる時は、茹でてシュウ酸の量を減らしましょう。ほうれん草のおひたしには、

かつお節やちりめんじゃこをかけて食べるなど、カルシウムと一緒にとることで結石の予防効果がアップします。カルシウムが結石の成分であるため、カルシウムを摂取しない方が良さそうですが、胃腸の中でシュウ酸とカルシウムがくっついて便と一緒に出ること、尿に溶け出す量が減り結石ができにくくなります。そして、食事以外でも水分を積極的に取ることが大切です。体の水分が不足すると、尿の濃度が高まり結石ができやすくなるため、食事以外で1日2リットル程度の水分をとることが理想的です。水分補給をする際には、シュウ酸の多い玉露や紅茶は避け、水やほうじ茶をお勧めします。暑い時期は特に水分補給を十分に行い、尿路結石と共に熱中症を防ぎましょう。

【編集後記】 未だ終わりが見えない新型コロナ。不安を抱えながら生活を送り、約1年半が経ちました。そんな中、今年もコロナ感染拡大防止対策を考慮し開催した総代会。本人出席の人数を大幅に制限した中でしたが、議案について活発な質疑応答が行われました。コロナを機に会議などの開催様式が変わりつつありますが、来年度は通常通り開催できるよう、コロナが早く収束してほしいものです。(安)